

デザイン×ICTが支える食の安全安心

SF2T Project (Spinach Farm to Table Project)

食品偽装・残留農薬等の事件が続発する中、『食』の安全安心に関する消費者の不安が高まっています。消費者へのニーズに応える為、大学生協東京事業連合が構築した食のライフサイクルとトレーサビリティの可視化を組み合わせた、国境や文化を越えたグローバル規模のICTサービスのプロジェクトです。

実験目的

東京大学の農地情報モニタリングシステムと富士通の人を中心としたトータルデザインテクノロジーを組合せ利用者の意識改革とともに新たなICTサービスの可能性を検証し、社会への多様な貢献を目標としています。

研究結果

- 『食』を通じた生産者と消費者の新たなコミュニティ文化や場を創出
- 利用者の意識変革をもたらす新しい可視化ICTサービスの有効性
 - ICTを活用した顔と顔の見える関係
- 利用者の意識変革をもたらす行動変革
 - 生協食堂のほうれん草出荷実績：前年度比23%UP
- 食育や外食産業における新たなビジネスモデル構築への展開
- 研究教育機関、生活協同組合との新たなコラボレーションモデルの創出

